

### 3-8 大学情報化職員研修会

本研修会は、職員による教育支援、人材育成支援の積極化を図るため、大学が抱える教育問題を点検・確認し、担当業務の中でITを駆使して問題解決に向けた企画・提言および行動が可能となるよう、コーディネート力、マネジメント力の養成を目的として開催するものである。研修会の企画・運営・実施は、研修運営委会（委員長：山田 憲男、日本女子大学）を継続設置して、対応した。以下に活動を報告する。

#### （1）開催要項の決定と実施準備

研修の趣旨を理解する全体会では、職員としての人材育成支援、教育支援へのかかわり方について理解を共有するため、教育の質保証実現を目指して大学のガバナンスとしてFDやSDを進めている金沢工業大学の実践例を講演いただく。その上で、教育改善の具体的な取り組みの事例について知見を広げるため、電子的な学生指導シートや携帯電話等を活用した取り組み等、先進的に取り組んでいる活動内容および課題などの事例を紹介し、分科会に入ることにした。分科会では、業務およびテーマ別に11の分科会を設け、それぞれの業務の中で教育支援、人材育成支援への可能性について、解決策を模索することとした。

#### 平成19年度大学情報化職員研修会開催要項

##### 1. 開催趣旨

大学教育の成果である人材育成が社会から問われている。創造性、即戦力、基礎学力など人間力の低下が指摘され、学生の質保証が取り沙汰されるなど、教育全般に亘り改革が求められており、それには、理事会をはじめ教員・職員による人材育成の取り組みが不可欠であるが、とりわけ職員には、教育支援、人材育成支援の取り組みをコーディネート、マネジメントする能力が要請される。問題解決に向けた取り組みについて可能性を模索する中で業務を点検し、IT活用による教育改善および人材育成支援、望ましい情報環境や運営組織の在り方など、大学改革に不可欠な課題について事例紹介、意見交流を通じて職員一人ひとりの資質の向上を目指すことを目的に本研修会を開催する。

##### 2. 研修の進め方

本研修会は、研修の主旨を理解するための全体会（講演等、事例紹介）を

行います。その後、テーマ別の分科会形式に移行します。分科会では、趣旨に沿ってサブテーマの内容を中心に討議を行い、問題解決のための方途を探ります。また、必要に応じて、参加者の中から、あるいは外部関係者を招いて先進的な取り組み事例の紹介を行います。

### 3. 参加資格

加盟大学教職員：当協会加盟大学・短期大学の職員および教員。

賛助会員：本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方。

### 4. 開催日程・会場

A 日程：10 月17 日(水)～19 日(金)

B 日程：11 月7 日(水)～9 日(金)

会場：浜名湖ロイヤルホテル(静岡県浜松市)

※ 本年度は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。原則としてツインルームとし、部屋割りは当方で割り当てます。

### 5. 分科会

学内の基幹業務あるいは業務を横断するテーマについて討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解を深めます。

#### 【A日程】

A-1 ICカードの戦略的活用

A-2 戦略的な大学Web サイトの構築

A-3 学生基本情報の活用

A-4 戦略的な教育支援

A-5 個人情報漏洩対策

A-6 大学インフラとしての情報環境

#### 【B日程】

B-1 主体的な学びを喚起させる学修支援システム

B-2 キャリア形成支援

B-3 IT を活用したコミュニケーション

B-4 大学情報システムの危機管理と対策

B-5 図書館員による学習支援

### 6. 全体講演

「大学改革に求められる職員の役割」

福田 謙之氏(金沢工業大学事務局長 常任理事)

金沢工業大学では、「教育付加価値日本一」を目指し、教職員一体となって大学改革に取り組んできた結果、社会からその教育力を高く評価されている。大学教育に対する社会からの期待の高まりや教育の質保証の面から「学生が大学を卒業して何ができるようになったか」ということをいち早く

意識し、そのための教育改革として教育目標の明確化、それに対応するカリキュラム改革、シラバスの厳格化の推進など、人材育成の視点に立った改革を大学のガバナンスとして実践してきた。

本講演では、これらの改革の取り組み内容と実施に至った背景、および職員の果たしてきた役割やスタッフデベロップメントのあり方等についてご紹介いただき、職員が積極的に人材育成支援、教育支援に関わるためのあり方について基本的な考え方を共有することとしたい。

## 7. 事例紹介

基調講演終了後、各分科会開始前に、大学としての教育支援のあり方を理解するために有用な事例紹介を行います。事例紹介は複数の発表から参加者の興味・関心に応じて二つ選択します（参加する分科会によっては、聴講が必須の発表もあります）。詳細は本研修会Webサイトに随時更新します。聴講希望の申込みは事前にWebサイトを通じて行います。

### 【A B日程共通】

札幌学院大学「電子的な学生指導シート『はぐくみ』の活用」

日本大学「Google Appsを利用した学生用メールシステムNU-MailG」

名古屋学院大学「キャンパスコミュニケーションシステムによる学生サービス」

A日程のみ：明治大学「携帯電話を活用した授業改革」

B日程のみ：日本福祉大学「学生の成長を支援する教育開発」

※ 上記の他、各分科会内にて必要に応じて参加者や外部関係者からの事例紹介を行うことがあります。

## （2）開催結果と次年度の計画

参加者は、101大学、1短期大学、賛助会員7社の総勢224名であった。

開催結果の詳細は、資料編【資料15】を参照されたい。

参加大学数は前年とほぼ変わらなかったが、1大学あたりの参加者が減少したことにより全体として参加者数はやや減少した。参加者アンケートによると満足度は高かったが、研修会の目的を達成したかどうかの評価はその指標がないためよく分からないという指摘が運営委員会であり、次年度は適切な評価指標を示すなどして改善することとした。なお、研修会の目的である職員による教育支援、人材育成支援への取り組みの重要性は概ね理解された。次年度からは、本協会の独自性を発揮するために職員の職務意識の共有は割愛し、ITを活用した教育改善や大学改革の具体的な手法の研究を主要テーマとした研修に改組することとしている。